



月刊税理士事務所チャンネル CHANNEL

2017
1
No.425

「第41回全国統一研修会 四国大会 in 松山」開催報告 6

ミロク会計人会連合会
役員 年頭挨拶 2

ミロク情報サービス代表取締役社長
是枝 周樹 年頭挨拶 5

ミロクシステムQ&A
『ACELINK NX-Pro 電子申告』 16

今月の表紙: 初日を浴びる能登島と能登島大橋
場所: 石川県七尾市

日本の未来一
企業を支える



ミロク会計人会

2017 初春

ミロク会計人会役員

新年の 挨拶



ミロク会計人会連合会
会長 金子 秀夫

皆様、明けましておめでとう
ございます。

2017年の新春を大きな抱
負をもって迎えのことと、お慶
び申し上げます。

昨秋のミロク会計人会連合会主
催の「第41回全国統一研修会 四
国大会 in 松山」には、全国11
の単位会から多くの会員各位のご
参加をいただき、盛会裏に催すこ
とができ、ミロク会計人会の歴史
に新たな足跡を残すことができました。
この研修会で基調講演をい
ただいたカリフォルニア大学サンタ
バーバラ校教授の中村修二先生は、
一地方企業において青色発光ダイ
オードの開発に取り組まれ、世
界的大発明をなさいました。これ
は大企業でなくとも、都会でなく
ても、未来に光を求めて努力する
ことが、いつの日か光明をもたら
すことを私たちに教えてくださ
いました。私たちは全国に散らば

る、しかしミロク会計人として連
帯し、結束して中小企業の明る
い未来のために微力を傾ける集団
です。世界経済の大きな「うね
り」の中で中小企業経営者の皆
さんに寄り添い、共に発展するた
めには、彼方に光明を見出し確信
をもって進まねばなりません。そ
れはちょうど、中村先生がはるか
彼方の青色発光ダイオードの曙光
を求めて努力された姿にも通ずる
ものと思います。

この一年、私たちは（株）ミ
ロク情報サービスが生み出す諸シス
テムを武器として、中小企業の経
営をしっかりとサポートしてまい
りましょう。また、未加入の仲間た
ちにミロク情報サービスの優位性
を知っていただき、加入者の増加
により、組織の二層の充実を図っ
てまいります。



北海道会会長
中原 章博

新年おめでとうございます。皆
様におかれましては、お健やかに
新年をお迎えのこととお慶び申し
上げます。

北海道会は、本年も組織強化に
向け諸施策を展開します。会員の
満足度を高め（株）ミロク情報サ
ービス（MJS）にとつてのロイ
ヤルユーザーを拡大すること。そ
のことがMJSのシステム改善、
開発、サービスの向上をもたらし
、さらなる会員拡大に繋がるもの
と考えます。また、昨年の総会で
員をMJSシステムユーザーであ
る正会員と非ユーザーである準会
員に区分するように会則を変更し
ましたが、総会決議を受け正副会
長会では準会員から正会員に移行
する件数の目標設定をしました。

これらの実現のためには、北海
道会と地区会、MJSとの連携が不
可欠です。地区会やMJSとの一
層の関係強化を図り事業を推進し
ます。会員の皆様にはぜひとも積
極的なご参加をお願い申し上げま
す。

新たな年が皆様にとりまして良
き一年でありますようご祈念申し
上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



東北会会長
福嶋 朗

明けましておめでとうございま
す。

さて、マイナンバー制度も実行
段階に移り、年末調整等を通じて
その作業に余念のないことと思
います。

どのような制度でも、その普及
にあたっては絶え間のない見直し
が必要となり、我々もさらなる使
い勝手のよい制度構築に向けて努
力してまいる所存です。その際の
有力なツールとして、ミロク情報
サービス様のソフト活用を第一義
に考えております。

今年の政治経済状況を見通すに
当たり、「アメリカ大統領にドナル
ド・トランプ氏登場」の影響がど
のような形で出てくるか、興味深
いところがございます。少なくと
もアメリカ軍基地の運用において
は、今まで以上の財政負担を強い
られるのは確実でしょうから、負
担増に耐えうるべく経済活性化を
進めていかねばなりません。特に
地方圏の活性化が急務なわけだ
が、キーワードとして「農業」が
挙げられると思います。若者の雇
用の受け皿として農業法人の育成
を強力に推進することが大事であ
ると思っております。



関東信越会会長
増田 正廣

新年明けましておめでとうござ
います。

皆様方におかれましては、お健
やかな新しい年をお迎えのことと
お慶び申し上げます。昨年11月の
アメリカ大統領選挙。誰もが信じ
られなかったトランプ・ショック、
そして隣国、韓国での朴政権の異
常さと、昨年はまさかと思われる
出来事が世界中を震撼させました。

国内においては、消費税増税の
再延期、また秋に始まった所得税
の配偶者控除103万円の上限に
関する議論など、税制面におい
ても長く手をつけられなかった
変革が出てきました。ところで
2017年は、米どころ、酒どこ
ろ、朱鷺の里など、越後の新潟市
で「第42回全国統一研修会新潟大
会」が11月9日に開催されます。

新潟市は、人口約81万人を擁す
る本州日本海側最大の拠点都市で
あり、産業、ビジネスの舞台とし
て魅力あふれる政令指定都市です。
全国の会計人会および関係者のた
くさんの皆様方のお越しをお待ち
しております。新たな年が皆様方
にとってよりご発展されることを
ご祈念申し上げ、新年のご挨拶と
させていただきます。



東京会会長
馬場 英晶

新年明けましておめでとうございます。ミロク会計人会の会員の皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年11月17日、四国松山にてミロク会計人会連合会主催による「第41回全国統研修会 四国大会 in 松山」は、例年にも増して盛大に行われ、全国より多数の方々に来訪をいただき、無事に滞りなく終了しましたことを、ここに感謝申し上げます。

さて、昨年は、今後世界の政治や経済が大きく変化していくことを予想させるような大きな変動がありました。アメリカの大統領選挙戦で、全く新しいパターンの大統領トランプ氏が現れたからです。日本も少なからず、政治や経済に大きな変化が出てくると考えられます。私たちが関与している中小企業にも、当然影響が出てくると考えられますので、今後は、政治や経済の変化を事前にキャッチし、顧問先とはさらに充実した関係を保ち、業務を行っていくことが大切なことになってきます。本年も、会員の皆様方におかれましては、さらに良い年でありますようお願いしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。



北陸会会長
常山 明夫

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、新春を晴れやかに迎えのこととお慶び申し上げます。

会員増強を目指してきた北陸会では、昨年10月に目標であった3桁（111人）に会員数を増員することができました。これもMJS金沢支社をはじめ会員の皆様方のご協力に加え、会計事務所業務においてコンピュータシステムが必要不可欠になってきた表れかと思われまふ。世間ではAI（人工知能）の普及が騒がれ、ついには自動仕訳なる言葉も出現してきました。今こそミロク会計人会の課題は、会員の満足度を高めるため、本会およびMJS・その他関連会社による組織一丸となった運営・システムなどの改善・開発・保守力を向上させることだと考えます。ひいては顧問先企業の繁栄・発展を考え活動していきたいと思っております。

今後ますますのミロク会計人会の飛躍を祈念するとともに、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。新年の挨拶にさせていただきます。



中部会会長
石川 光男

2017年の年頭にあたり、会員の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、アベノミクス第二弾と言いつつ、インフレ率2%も及ばず、東海地区は厳しい経済環境下にあります。会計事務所業界にとってもさまざまな経営課題は関与先の経営課題と共通項であり、私どもの事務所での実践項目が顧客への提案項目となり、大きな説得力を持ちます。

働き方改革における職場環境のさらなる整備、「AI」の動向、昨年より始まった「マイナンバー」などでのセキュリティの一層の強化、クラウドやフィンテックなどでの生産性の向上、中期経営計画の策定など、「みらい経営」への対応が顧客との一体感や使命として求められる経営課題であります。私ども中部会においてもより一層の研修の充実を図り、会員内の対応力を高めることが、これらの課題解決の第一歩と認識し、さらに会計人会の必要性を高めます。本年も皆様方にとって良い年でありますように祈念し、皆様方とともに積極的な活動を誓い、新年の挨拶と致します。



近畿会会長
植田 卓

平成29年を迎え新春のお慶びを申し上げます。

会計事務所にとっての設備投資は、業務に有効で優れたコンピュータシステムの導入と、能力のある優れた人材の確保であると思います。そしてそのコンピュータシステムが優秀であるためには、ユーザである会計事務所の声がシステムに反映されていることが重要です。ミロク会計人会連合会にはシステム開発委員会があり、各単位会から選ばれた委員がユーザとしての声を的確にMJSに伝え、その結果は本会のホームページを通じて公表しています。

また、会計事務所における優れた人材の確保のためには、採用した人材を教育してよい人材に育て上げることが重要です。しかし、各事務所が自前で職員の教育を行うのは容易ではありません。近畿ミロク会計人会では、ミロク会計人会連合会の研修委員会との連携も取りながら、職員に対する中身の濃い研修を積極的に開催しております。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



中国会会長
吉井 利幸

新年明けましておめでとうございます。昨年さまざまなことが起こりました。次々にいろいろなことが起きるので、以前のことはほとんど上書きされて重要なことすら忘却してしまう時代のような気がします。振り返りますと、1月は世界同時株安、マイナス金利導入、4月はシャープ買収、パナマ文書、5月はG7伊勢志摩サミット、6月は英国のEU離脱、消費税延期、9月は広島カープ25年ぶり優勝、黒田引退と数多くあります。

我々はどういう時代にあっても中小零細企業およびその経営者の良きサポート役として責務を果たしていかなければなりません。インターネットの次はAI（人工知能）が世の中を変革していくことは間違いないでしょう。そして、我々の業務がAIに代替されないよう我々自身がAIを使いこなしていけるように会員の皆様と協力をし、情報交換をし、次世代に備えていきたいと考えております。

今年も良い年になりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



四国会会長
木村 幸博

明けましておめでとうございます。

さて、昨年の「第41回全国統一研修会 四国会 in 松山」には、日本全国各地より多くの先生方にご参加いただきまして、ありがとうございました。おかげさまで無事に終了することができました。

本年は新潟での開催、関東信越会の先生方にはお世話になります。が、よろしくお願い致します。

四国の経済規模は、日本の3%とよく言われます。その中で税理士が1500名ひしめき合っており、過当競争を繰り広げております。ミロク会計人は、その中でいかに抜きん出て、評価される税理士になるか、いかに他者との差別化を図り、そのアピールをし、選ばれる会計人になるか。常に問い、模索を続けていかなければ、いつかあるいはもう既に、他者の後塵を拝する状況になるかも、なっているかもしれません。

油断することなく、切磋琢磨し、エヌエヌ生命との連携で生まれた資金の活用を図りながら、選ばれるミロク会計人となるような、研修と研鑽の一年にしていきたいと思っております。



九州会会長
大久保 昌逸

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の九州は、熊本・大分において、予想だにしない大きな地震が発生し、多くの会員が被害を受けました。その折には、全国の会員やMJSユーザーの皆様をはじめ、株式会社ミロク情報サービスの社を挙げての暖かいご支援をいただきました。現在も復興の途中ではありますが、改めて御礼を申し上げます。

さて、本年は酉年であります。「酉」とは「果実」が極限までに熟した状態。あるいは「物事が頂点まで極まった状態」を表しているそうです。皆様はどのように受けとられるのでしょうか。ちなみに、酉の付く年は商売繁盛に繋がると言われます。この一年が期待できそうな気がしてまいりました。最後にになりましたが、この新しい年が全国各地の会員の皆様にとりまして健やかな年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



沖縄会会長
高良 正一

新年おめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

沖縄は観光産業の好調、アジア諸国の経済発展の影響を受けて全体としては良い面が表れていると言えるでしょう。アジア諸国との経済交流促進を目指し「グローバルゼーション」、「沖縄がそのフロンタランナーになろう」など沖縄県や経済界でそういった声が頻繁に聞かれるようになってきています。琉球王朝の昔から他国と交易してきた歴史からすると、自然なことかもしれません。

さて、去る11月の連合会正副会長会において、来年の第43回全国統一研修会を沖縄会が担当することが推薦されました。大変喜んでおります。

昨年の松山での大会は研修内容会場、四国会の皆様を取り組みと良い大変すばらしいものでした。私たちも遠く全国から訪れる皆様に喜んでもらえる研修会にしたいと思っています。まずは今年の新潟大会の成功を祈念致します。今年もよろしくお願い致します。



連合会監事
林 伸三郎

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

一昨年の近畿会会長・連合会副会長を退任、昨年の定期総会で連合会監事に選任されました。在任中は関係各位の先生方、そして事務局の皆様には大変お世話になりました。感謝しております。

連合会副会長着任初期、会費制が導入されたことにより、会務運営のあり方について、会員先生の関心が高まっております。当時私は総務委員会を所掌していたことから会計人会の活性化のために、①全てのユーザーは会計人に自動加入②連合会・単位会の磐石な財政基盤の確保③連合会に理事会の設置を提言いたしました。

①は、特別委員会を設置し検討するも先送り、②は、現在のエヌエヌ生命と折衝後、総務委員会・正副会長会で審議いただき業務提携締結、③は、永年の審議をいただき設置決定となりました。

会務監査に軸足を置き、魅力ある会計人会を目指し、監事として有効な提言ができればと思っております。会員諸兄のご意見等お待ちしております。



連合会監事
武安 紘二

新年明けましておめでとうございます。全国のミロク会計人の先生方には穏やかに新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、全国のミロク会計人の先生方と（株）ミロク情報サービスとの両輪協調のもとで順調に拡大傾向にあることは同慶の至りであります。特に昨年8月には会計人会連合会の中に「理事会」組織を立ち上げ、全国の会計人会会員の皆様へ向けてさらなるサービスの提供に具体的に取り組む体制ができました。今後、理事の先生方のご努力とリーダーシップに期待するところ大であります。金子秀夫連合会会長を中心に全国の本会会員の先生方と共に全国の中小企業がもつと元気になるよう貢献したいものです。

昨年は我が広島東洋カープが25年ぶりにプロ野球セ・リーグを制覇し、地元広島県人としては喜びを爆発させました。今年もまた、全国の先生方の事務所が「神つてる」「爆発的勇氣」で発展されますことを心から念じています。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

地域経済を支える中小企業

昨年は、将来のリスク回避を理由に消費税増税の再延期が決定され、また、政府や日銀の経済対策、金融政策等により、国内景気は総じて緩やかな回復基調を維持しました。しかしながら、地方の中小企業においては、少子高齢化や産業構造の変化の波に晒され、非常に厳しい経営環境の中、会計事務所の先生方のご支援の下、不断の経営努力をされていることと拝察します。地域の経済雇用を支える中小企業がこれから力強く前進していくために、会計事務所の先生方の果たされるべき役割が、より一層重要性を増してくることは間違いありません。

デジタル革新の急速な進展

IoTやビッグデータ、ロボット、人工知能などに代表される技術革新は、既にビジネスの世界に浸透し始め、これまでにないスピードで進行しています。人工知能においては、「シンギュラリティ」(Technological Singularity)、つまり、コンピュータ等の性能が全人類の知性の総和を越える特異点と呼ばれるものが、2045年に来るという説もあります。このため「シンギュラリティ」は「2045年問題」とも言われています。人口知

能が進化すると人の仕事が奪われる、という話もありますが、それは人にしかできない領域の仕事がより進化することを意味すると考えます。仮に、会計事務所の業務の一定量を人工知能に置き換えることになれば、先生方においては、より一層、顧問先企業の経営者に寄り添った人と人との深いコミュニケーションが可能となり、より多くの経営者と共に新しい未来を創造、デザインしていくことができるようになる、そのような世界を私は想像しています。

新規事業を推進し中小企業を元気にする

昨年、中小企業の経営改善や業務改善を支援するBtoBクラウド・プラットフォーム「bizsky」を構築し、そのプラットフォーム上で稼働する最初のクラウドサービスである「楽たす振込」の提供を開始しました。「楽たす振込」は、お客様の仕入、経費などの振込支払業務をMJSが代行することにより、振込手数料の削減と業務効率化を支援するクラウドサービスです。今後、「楽たすシリーズ」をさらに拡充して、給与振込や給与明細配信、請求書発行、資金繰り管理などの新たなクラウドサービスを展開し、中小企業のIT化を力強く支



株式会社ミロク情報サービス
代表取締役社長
最高経営責任者
是枝 周樹

援してまいります。

一方、中小企業の経営課題の一つである事業承継を支援するために、子会社であるMJS M&Aパートナーズと共にミロク会計人会との協業を推進しています。会計事務所とのパートナー制度においては、既に1600以上の会計事務所と契約を締結しております。これからの会計事務所の先生方と共に、顧問先企業の立場に立った事業承継を万全な体制でご支援できるよう努めてまいります。

当社は、会計事務所の先生・職員の皆様へのご支援を通して、顧問先企業の発展に貢献することを使命としています。私たちはこれからも、IT分野での最新技術の調査・研究や専門会社とのアライアンスを積極的に進め、新しい価値創出に向けてチャレンジしてまいります。そして、会計事務所がより一層、付加価値の高いサービスを顧問先企業に提供できるように、また、先生方と更なる強固なパートナーシップを構築できるよう、社業に邁進してまいります。

最後に、諸先生、職員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

「第41回全国統一研修会 四国大会in松山」開催報告

「お接待の心を、力にかえて！　世界へ」を

テーマに開催され、893名が松山に集結!!

11月17日(木)、愛媛県松山市の「松山全日空ホテル」にて、ミロク会計人会連合会主催の「全国統一研修会 四国大会in松山」(開催担当会：四国ミロク会計人会)が、893名の参加を得て盛大に開催されました。



式典風景

式典は、午後1時45分から愛媛・美智子大会実行委員とアシスタントの合田みゆき氏の司会の下、近藤猛大会実行委員長の挨拶により開会。

金子秀夫ミロク会計人会連合会会長による大会開催のご挨拶の後、財務大臣の麻生太郎様からの祝辞を石川光男連合会副会長が代読披露。その後、来賓の中小企業庁事業環境部長の吉野恭司様および四国税理士会会長の筒井伸司様からご祝辞をいただきました。

単位会表彰では、前年の「第40回全国統一研修会 北陸大会」を担当された北陸ミロク会計人会を代表し、常山明夫北陸会会長が表彰を受けられました。功労者表彰では、このたび任期を終えられた連合会の平川忠雄前

会長、北陸会の豆本義弘前会長(代理で常山現会長が受取)、四国会の松内邦雄前会長が表彰されました。

そして、協賛会社であるミロク情報サービスの是枝周樹代表取締役社長の挨拶の後、祝電披露が行われ、正司哲浩大会実行副委員長の開会の言葉で式典は終了となりました。

引き続き午後2時30分からは行われた基調講演は、徳永豊大会実行委員の開会の言葉でスタート。カリフォルニア大学サンタバーバラ校材料物性工学科教授の中村修二氏により、「青色発光ダイオードの発明を振り返って」をテーマにご講演いただきました。竹内靖大会実行副委員長の謝辞と閉会の言葉で幕を閉じました。

第1分科会は、連合会研修委員会の企画・運営により、(株)実務経営サービス代表取締役の中井誠氏を招き、「変わるのか？ 会計事務所を取り組むべき課題～未来は明るい!!」をテーマにお話いただきました。司会を梶義明研修委員会副委員長が務め、謝辞と閉会の言葉を岸上善宣大会実行委員が述べられました。

第2分科会は、徳武産業(株)代表取締役会長の十河孝男氏に、「感動のオンリーワン企業を目指して」と題した講演をしていただきました。三谷茂寿大会実行委員が司会を務めるとともに開会の言葉を述べ、最後は阿部琢弥大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で終了しました。

第3分科会は、松山市立子規記念博物館館長の竹田美喜氏を講師に招き、「子規と漱石in松山」新しい文学の夜明け」をテーマにお話いただきました。十河篤史大会実行委員が司会を務めるとともに開会の言葉を述べ、高橋学大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で終了しました。



単位会の表彰を受ける
常山 明夫北陸会会長



壇上の連合会役員



開会の挨拶をされる
近藤 猛大会実行委員長



閉会の言葉を述べる正司
哲浩大会実行副委員長



功労者表彰を受ける松
内 邦雄四国会前会長



功労者表彰を受ける平
川 志雄連合会前会長



ご来賓席と協賛会社席



(右から)司会の愛染 美智子大会実行
委員とアシスタントの合田 みゆき氏

ご祝辞

財務大臣 麻生 太郎 様
代読 石川 光男 連合会副会長



本日、ミロク会計人会連合会主催による第41回全国統一研修会が、愛媛県松山市において盛大に開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

皆様方には、日頃より、独立した公正な立場から、納税者を支援し納税義務の適正な実現を図るという社会的・公共的使命を果たされる一方、納税の基礎となる記帳や会計処理をはじめ、商取引の面においても指導的な役割を果たすことで、国民経済の発展と健全な国家財政の実現に寄与しておられることに、敬意と感謝の意を表するものであります。日本経済は3年間に及ぶアベノミクスの取組の下、国民総所得は40兆円近く増加し、国の税収は15兆円増えました。企業収益は過去最高水準となり、有効求人倍率やベースアップの状況など、雇用・所得環境も大きく改善しております。今後とも、更なる好循環を形成するため、アベノミクスを二層加速させていくとともに、子育て支援や社会保障の基盤を強化し、誰もが活躍できる一億総活躍社会実現に全力で取り組んでまいり所存ですので、引き続き御協力を賜りますようお願いいたします。さて、最近の税務行政について申し上げますと、今年1月からマイナンバーの利用が順次開始されており、円滑な利活用が大きな課題となっております。マイナンバーの導入により、納税者の利便性向上や税務行政の効率化が期待されております。制度の定着に向け、皆様方には、中小企業者を含めた納税者の最も身近で信頼できる相談相手・専門家として一層指導・助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、貴連合会の益々の御発展と、御参会の皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

中小企業庁 事業環境部長
吉野 恭司 様



このたびはミロク会計人会連合会、第41回全国統一研修会 四国大会 in 松山の開催、誠におめでとうございます。貴会の発足から40年以上、中小企業・小規模事業者の経営パートナーとして、使命感を持って日々の業務に取り組んでこられました皆様に敬意を表するとともに、中小企業に携わる者としても、心から御礼申し上げたいと思います。

中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、さまざまな課題に直面しています。そのなかでもまず取り組むべきは、生産性の向上だと考えます。私どもは7月に中小企業等経営強化法を施行しました。これにより、大臣の認定を受けた計画に従って経営強化に取り組む中小企業に対し、固定資産税の減免などを措置しています。そしてもう一つ大事なのが、事業承継問題です。中小企業の経営者のピークは既に66歳となっており、これから5〜10年のうちに極めて多くの事業者がこの問題に直面していくこととなり、私どもでは税制、金融面での支援の他、全国に相談機関を設置するなどさまざまな施策を講じています。生産性向上、この事業承継問題とも経営者にとって身近な存在である税理士・公認会計士の皆様のサポートが重要です。私どもが講じている各種施策をご理解の上、中小企業が抱える問題の解決に強力なご支援をお願い致します。

最後になりますが、今後も貴会がますます発展されますことを心からお祈り申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

四国税理士会会長
筒井 伸司 様



本日は第41回全国統一研修会 四国大会 in 松山が、かくも盛大に開催されますこと、まずもってお慶び申し上げます。全国より、ここ松山にようこそおいでくださいました。また、会場の先生方のなかには、税理士会の会務運営の中心となって活躍されている方も多く、日頃の税理士会に対するご支援ご協力に改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、少子高齢化、国際化、IT化などにより、税理士を取り巻く環境が年々変化してきております。このような社会情勢を踏まえ、国民・納税者からより一層信頼される税理士像を構築するため、積極的に諸施策を講じているところでございます。また、税理士の顧問先である中小企業の多くが依然として厳しい経営環境にあるなかで、税理士は企業のホームドクターとして、本来業務にとどまらず、経営支援にも注力し、その存在感を発揮していかねばならないと考えます。四国税理士会では、会員の高齢化と会員数が少ない支部をどう運営していくかという課題がありますが、「全員参加で無限の前進」をスローガンに役員一同、会務に精進しているところでございます。

明日からはゴルフ大会と記念旅行が催されると伺っております。四国は海と山に囲まれた自然豊かな土地であり、おいしい食事や地酒などもございます。どうぞ秋の四国をご満喫ください。結びにあたり、貴会のますますのご発展と、お集まりの皆様方のご健勝とご繁栄を祈念して、歓迎の言葉とさせていただきます。

ご挨拶

ミロク会計人会連合会会長
金子 秀夫



開催に当たり、全国11の単位会から皆様にご参集いただき、誠にありがとうございます。また、本日は多くの来賓の方々にもご来賓を頂戴しており、御礼を申し上げます。そして本大会の開催に多大な尽力をいただきました、地元四国会の皆様にも心から感謝を申し上げます。

さて、マイナンバー制度の導入などさまざまな動きがある業界ですが、次に来る大きな課題は国税通則法の改正だと私は思います。特に問題となりそうなのが国税犯則取締法の一般法化です。国税通則法の中にその条項を取り入れ運用していくというもので、これが実現すると、国税局はクラウドなどインターネット上に保存されているデータを自由に調査できる権限を与えられるようになります。今後、顧問先からこの件について問い合わせを受けることがあるかもしれませんので、本会としても会員の皆様にも有効な法的対応策を提示する必要があると考えます。必要に応じて日本税理士会連合会、日本公認会計士協会などとも意見交換をしながら方策を打ち出していきたいと思っております。

会長就任から100日あまりの私の抱負としましては、全国11単位会の皆様と一緒にあって、特に中小企業に寄り添い、皆様の権利・利益を守るような、そういう意義のある会にしていきたいと考えております。今後とも、皆様からのご協力を切望しながら、また本大会が成功することを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

協賛会社挨拶

ミロク情報サービス
代表取締役社長
是枝 周樹



本日は、ミロク会計人会連合会主催の第41回全国統一研修会 四国大会 in 松山において、多くの皆様方にお集まりいただきましたことに、心より深く御礼申し上げます。大会準備にあたられた四国会の諸先生方、ならびに、ご来賓の先生方にも、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨今IT業界において「フィンテック」というキーワードがよく聞かれるようになり、仮想通貨やモバイル決済などさまざまな関連サービスが生まれています。当社におきましても、会計システムにフィンテック関連の機能を追加するとともに、業務効率化やコスト削減に資する「楽たす振込」というフィンテック関連の新サービスも提供を開始しました。今後この新サービスの内容を拡充していく予定です。

また、人工知能（AI）も大きな注目を浴びています。税理士業務の一部が人工知能に奪われるという話も聞きますが、私は先生方が顧問先様に対してより付加価値の高いサービスを提供できる環境が整うチャンスだと認識しています。当社としてはクラウドやAI、フィンテック分野の研究を重ね、先進的な製品・サービスを開発・提供し、先生方のより良い業務推進に向けた環境づくりに貢献したいと思っております。

当社はこれからも、ミロク会計人会と車の両輪のごとく協力し合い、会計事務所業界の発展、そして顧問先の中小企業を元気にできるよう、最大限のご支援をまいります。今後とも、ご指導・ご鞭撻くださいますよう、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



四国税理士会会長の筒井 伸司様のご乾杯で懇親パーティーは開始



懇親パーティーの司会を務めた
多田羅 祥代大会実行委員(右)



お遍路さんの装いで開会挨拶を述べる
四国会の木村 幸博会長



阿呆連による阿波踊りでは、先生方も舞台上に上がり踊りました



お遍路をテーマにした坊っちゃん劇場のミュージカル



来賓挨拶で歓迎の意を述べる
愛媛県知事の中村 時広様



協賛会社挨拶をされたMJSの
是枝 伸彦会長



増田 正廣会長をはじめとする関東信越会の皆様が次期大会への
参加を呼びかけ!



四国会の大会実行委員会の皆様による「空海の道」の合唱

懇親パーティーは午後6時30分に幕を開けました。多田羅 祥代大会実行委員とアシスタントの合田氏の司会のもと進められ、まずは開会の挨拶として四国会の木村 幸博会長がお遍路さんの装いで登場。会場を沸かせ、お接待の気持ちを込めた挨拶をされました。続いて来賓を代表し、愛媛県知事の中村 時広様からご挨拶をいただき、四国税理士会会長の筒井 伸司様に乾杯のご発声をしていただきました。食事が始まると間もなく、地元の劇団、坊っちゃん劇場によるミュージカル「お遍路さんどうぞ」が上演されました。坊っちゃん劇場は地域活性化を目的に結成された劇団で、劇場10周年記念作品を30分に短縮した特別編を披露いただきました。

上演後、歓談の時間では、同じ単位会で親睦を深める人、他のテーブルに赴き他の単位会の方と旧交を温める人など、皆さん思い思いにパーティーを楽しまれたご様子でした。

次のアトラクションでは、徳島の阿波踊り集団、阿呆連による演舞が披露されました。

続いて、四国会の大会実行委員会の皆様がお遍路の姿で壇上に立ち、参加された方々に感謝の気持ちを込めて、四国八十八ヶ所を紹介している「空海の道」を合唱し、全てのアトラクションは終了となりました。

パーティーの締めくくりでは、四国会の木村会長が次期大会を担当する関東信越会の会旗を増田 正廣会長に手渡ししながらエールを送りました。続いて、会旗を受け取った増田会長と壇上に上がった関東信越会の皆様が、新潟県新潟市で開催される第42回大会への参加を呼びかけました。そして、協賛のミロク情報サービスの是枝 伸彦代表取締役会長より挨拶がありました。そして、最後に日下 雅史大会実行副委員長の閉会の挨拶があり、懇親パーティーは終了となりました。



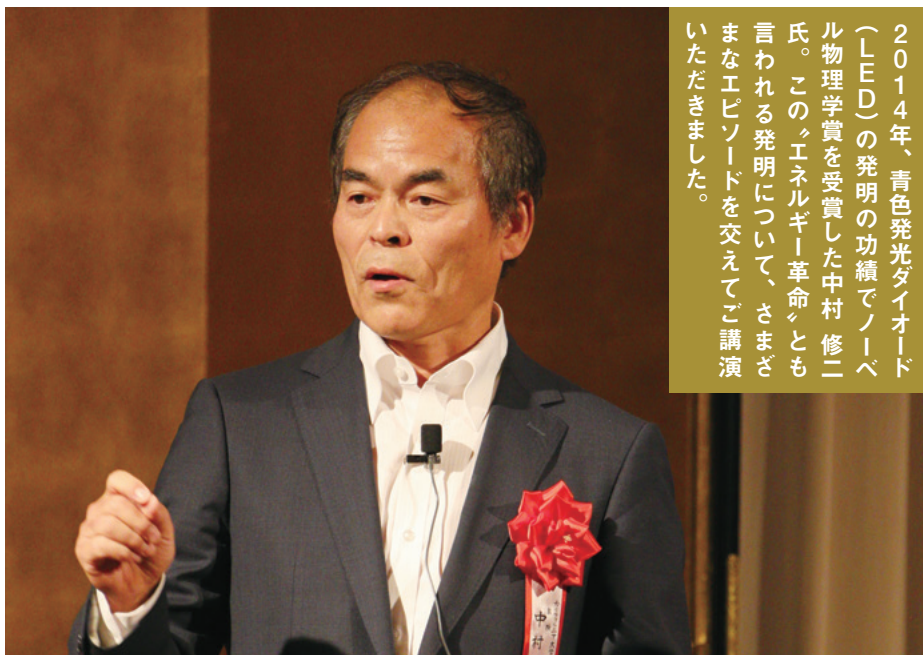
講演者

中村 修二 氏

なかむら・しゅうじ

カリフォルニア大学サンタバーバラ校
材料物性工学科教授

1954年、愛媛県伊方町大久生生まれ。79年、徳島大学工学部修士課程を修了後、日亜化学工業(株)に入社。92年、青色に光るインジウムガリウム窒素(InGaN)の結晶成長に世界で初めて成功、翌年にはInGaNを発光層とするダブルヘテロ構造高効率青色LED(青色発光ダイオード)を世界で初めて発明、製品化した。95年、世界で初めて青紫色半導体レーザーのパルス発振に成功し、同レーザーの製品化を果たす。99年、日亜化学工業(株)を退社し、2000年からカリフォルニア大学サンタバーバラ校材料物性工学科教授に就任。14年、ノーベル物理学賞を受賞。



2014年、青色発光ダイオード(LED)の発明の功績でノーベル物理学賞を受賞した中村修二氏。この「エネルギー革命」とも言われる発明について、さまざまなエピソードを交えてご講演いただきました。

「青色発光ダイオードの発明を振り返って」

青色LEDの発明

現在、LED照明は屋外大型ディスプレイや各種ディスプレイのバックライト、車載用照明、屋内照明などのほか、一般家庭でも利用され、広く普及しつつあります。小型で長寿命なのが特徴で、その効率は蛍光灯の2倍、白熱電球の10倍にも及び、寿命は50年にもなります。今日はこのようなLED照明による「エネルギー革命」に欠かせなかった、90年代初頭の私自身による青色LEDの研究開発について振り返ってみたいと思います。私が徳島大学工学部修士課程を終えて日亜化学工業(株)に入社したのは1979年。99年に退社してカリフォルニア大学へ行くまでの約20年間、他の大企業の手を借りるわけでも、大学など外部の研究機関と共同研究するわけでも、国の支援を受けるわけでもなく、完全に同社の研究開発部隊単独で半導体研究に取り組みました。といっても最初の10年間、私が手掛けた製品はなかなか売れず、会社の幹部たちからは「会社を辞めたら」といった声も上がり始めていました。そこで、88年

に私は辞職覚悟で当時の創業社長、小川信雄氏(故人)に「青色LEDの研究をさせていか」を直談判したのです。その熱意が通じたのか、小川氏は青色LEDの研究開発の許可、開発費の支出とアメリカへの留学を許可してくれました。現在でも彼のことは人生最大の恩人だと思っています。さて、このように私がこだわった青色LEDとはどのようなものなのか、あらためて説明したいと思います。白熱電球の場合はフィラメントが高温になって光るのに対し、半導体素子であるLEDは電気の流れが直接光に変わります。そのため、非常にエネルギー効率が良いわけです。実は赤に光るLEDは、60〜70年代に開発されてきました。黄緑色もありましたが、暗くて用途は限定されていました。LED照明に求められる白色などさまざまな色を表現するには「光の三原色」が揃わねばなりません。そして、20世紀中には、実用が不可能とされていた青色のLEDと高効率緑色LEDが、最後の発光色として開発を待たれていたのです。私は88年から1年間フロリダ大学電気電子工学部で学びました。

89年に帰国後、1年半かけて、独自に「ツェーフロムOCVD(有機金属気相成長法)」という結晶成長装置を発明し、これによって92年に、世界で初めて高効率青色LEDを発明し、93年に製品化を成し遂げました。その結果、96年に日亜化学で、世界で初めて青色LEDと蛍光体を組み合わせることによって白色LEDを実現できるようになったのです。

メディアと司法制度の墮落

こうした青色LEDの研究開発そのものは、入社してからの過去10年間にわたる日亜化学工業での赤外、赤色LEDの研究の経験があつたこともあつて比較的スムーズに進んだのですが、その後、ノーベル物理学賞をいただいた2014年発表前後までの間に、私は日本のメディア、学術関係者、国の機関や司法制度の墮落に直面することとなります。

99年末に日亜化学工業を退社した私を、1年後の00年に、以前の会社が「企業秘密漏洩疑い」で私個人を米国で提訴。その1年後に反訴として、01年に職務発明の権利と対価を求めて、

日本で同社を提訴。米国の裁判は、02年に、私の全面勝訴で終結。日本の裁判は、一審では日亜側に200億円の支払いが命じられたものの、05年に高裁で和解が成立し、最終的に約8億円が支払われることになりました。このこと自体は事実なのですが、各社メディアはこぞつて連の騒動を二面的に取り上げ、古巣の企業を訴えた金の亡者」というイメージを私に貼り付けたりしました。しかし、私が裁判を起こしたのは、以前いた会社に米国で最初に訴えられたからで、その反訴として始めたものでした。訴えられるようなことがなかったら、私は、裁判はしませんでした。この日本での裁判を通じて勉強したのですが、私の要求は科学者として至極当然なものです。日本には特許法第35条という法律があり、これは企業内研究者の発明の特許権はその企業のものではなく、発明者に帰属することを定めたものです。発明を企業のものにするには、特許権を企業に与える旨が記された契約書に発明者がサインする必要があります。発明の権利を企業のものとした場合は発明者にそれ相当の対価を与えなければ

なりません。が、同社と私の間にはそのようなお互いが納得でサインした契約書は存在しませんでしたし、職務発明の対価もほとんど支払われていませんでした。私は、私の発明に対する「特許権の帰属と、それ相当の対価」を求めて訴訟を起こすことにしたわけです。私はこの日米同時の裁判を通じて日本の司法制度の欠点を思い知りました。まずアメリカでは原告・被告双方からの徹底的な証拠提出や長時間に及ぶ証人尋問を経て、法廷で激論が交わされるのに対し、日本における裁判にはそのいずれもありません。また、アメリカでは正義が悪が明確に裁かれるのに対し、日本では両者をなんとか和解に導くつけさせる落しどころを探しの場となります。あるいは、利益衡量判決です。どちらを勝たせたら、どれだけ多くの人利益を被るかを考えて判決を出すのです。そこには、「正義や悪」で判決を出す発想は微塵もありません。同社と私の係争に下された和解がまさに利益衡量判決です。事実、その和解文書には、以下のように記載されています。「中村修二の青色LED発明への貢献度

は認める。しかし、企業が多大な相当対価を払えばその企業の存続を阻害することになる。よって支払金額は8億円とする」という和解を下したのですから。また、罰則も「判例主義」という弊害があります。これは、米国のように懲罰的罰則を下すのではなく、「セクハラ被害なら賠償金100万円」「名誉棄損なら賠償金100万円」といった具合に過去の同種の裁判の先例に従って判決を下すことを意味します。米国のように懲罰的判決にしないと、権力者や金持ちに100万円の損害賠償判決を出しても、何も効果がないと思われれます。そしてもう一件、メディア、学術関係者、国の機関の変な姿勢に直面させられた出来事がありました。14年のノーベル物理学賞受賞時のことでした。その時、青色LED開発・発明によって同賞を受賞したのは赤崎勇名城大学教授と天野浩名古屋大学教授、そして私の3人でしたが、多くのメディア、学術関係者、国の機関は、私たちのことを「赤崎教授と天野教授が青色LEDを開発発明、中村教授がその量産化技術を開発」と

説明したのです。テレビのニュース新聞のマスメディアだけでなく、日本学術会議、応用物理学会、日本科学技術振興機構(JST)、NEDO、文部科学省においてもそういった記述が見られたのであきれました。ノーベル物理学賞とは人類に貢献する研究の発明や発見を対象とするのであって、単なる量産化技術に与えられるものではありません。赤崎教授が青色LEDのための高品質な材料を作り、その材料を元に、天野教授が「PN接合」というものを開発しました。そして私が、その「PN接合」の中に、青色に光る発光層(InGa_N)というものを初めて発明して、その発光層を挿入して、世界で初めて青色に光る青色LEDを93年に発明、製品化したのでした。私が日本の司法制度やメディア、旧態然の学術関係者、国の機関への疑義を表明するのは、後代の研究者たちの環境改善モチベーションアップのため、ひいては日本の科学技術振興のためを思うてのことなのです。

LED照明の高度化へ

現在、私はLEDやレーザーダ

イオードのさらなる高度化を目指して研究開発を続けています。青色LEDでできた、白色発光ダイオードの光を長時間見つめると、睡眠に係るメラトニンの分泌が減って、睡眠障害、あるいはホルモンバランスが崩れて、いろんな健康障害を起こす可能性があるということが最近、報告されるようになってきました。青色LEDではなく、紫色LEDで作った白色LEDは、現状では、健康障害は何も報告されていません。ぜひ、この紫色LEDで作った、白色LEDを使用してください。この白色LEDで作った照明器具は、アメリカで我々が立ち上げた、ベンチャー企業(ソーラー社)が世界中に販売しております。地球上で最もやさしい光が、太陽光であることは間違いありません。ソーラー社の白色LEDは紫色で白色LEDを作っていますので、白色LEDの中では、最も太陽光に近い、白色を表現できます。これからもLEDやレーザー照明の光を高度化させ、少しでも太陽光に近づけられるように努力していきたいと思っています。どうか、期待ください。

第1分科会レポート

「変わるか？ 会計事務所 ～取り組むべき課題～未来は明るい!!」

第1分科会は、ミロク会計人会連合会・研修委員会の企画・運営のもと、(株)実務経営サービス代表取締役の中井 誠氏に、会計事務所の取り組むべき課題について語っていただきました。

講演者



中井 誠氏

なかいいまこと
株式会社実務経営サービス
代表取締役

大手電機メーカーのシステム情報機器部門の統括部長を経て、1999年、会計事務所とその先の中小企業の永続と繁栄を支援することを目的として、(株)実務経営サービスを設立。全国の先進的な経営を目指す会計事務所を対象とし、さまざまな情報提供や「事務所経営コンサルティング」を開始し、17年間で3500を超える会計事務所を訪問している。また、創業と同時に職業会計人の成長と発展を目指す「実務経営研究会」を立ち上げ、現在、全国約1400の会計事務所が参加し、年間130回を超えるセミナー・勉強会を開催している。さらに、全国の会計事務所所長インタビューや事務所経営に役立つ情報が満載の「月刊実務経営ニュース」は99年4月に創刊以来、ひと月も欠かさず発行し続け、通算200号を超え、業界唯一の月刊情報誌として高い評価を得ている。

という、他業種にはあまりない特性を持っています。これを生かして、顧問先企業の経営者の方の話に耳を傾けてください。そこで聞き出した悩みやニーズが、新しいサービスや事業展開に結びついていきます。

顧問先に「価値」を感じてもらおう

最新の税理士実態調査報告書では、会計事務所の顧問料は年々低下しており、月額の平均が3万円以下の事務所が現在では最多の層という結果が出ました。近年では、驚くほど低料金の月額顧問料をうたうような事務所も散見され、競争が激しくなっていることを物語っています。

一方、これを顧客の側から見ると、「顧問料」という内訳が不透明な報酬体系自体がそぐわなくなってきたのかもしれない。ここに着目し、「顧問料不要」をうたう会計事務所が実際にあります。これは無料でサービスを提供するのではなく、顧客が求めるサービスの内容によって金額を決定することを表したものです。結果的に月々費用を支払うことには変わりはない

のですが、サービス内容と料金を選択できるのでお客様は納得感が得られるのでしょうか。

また、顧問料などの値下げを招かないためには、顧客に「価値」を感じてもらわなくてはなりません。顧問先の経営者は、コミュニケーションを求めています。特に所長ではなく職員の場合、顧問先の担当者とは話さず社長に会わずに帰ってくるケースがよく見られます。例えばある事務所では、「月次決算書」を作成し、職員であっても顧問先の経営者と話がしやすくなるツールとして活用しています。

有資格者の増加、中小企業の長引く不景気の影響などからくる顧問料低下の流れの他、IT化の進展がもたらす「フィンテック」という新しい業務効率化の波など、業界を取り巻く環境はあらゆる面で大きく変化しています。ですがこれらは決してマイナスばかりではありません。前向きに捉え、流れをプラスにもっていくことが肝要です。

——中井氏の講演後、3名の研修委員による事務所経営に関する質疑応答が行われました。

小山 敏委員 事務所を承継開業したのですが、既存の職員の新しい目標に向けてのモチベーションを高められずに悩んでいます。

中井氏 朝礼で必ず共有するなど、事務所のこれからの方針を伝え続けることが大事です。

中村 泰道委員 職員が増えるにつれ、スキルの標準化やケアレスミスの防止がやりづらくなりました。

中井氏 勉強会の機会を増やすことです。毎日では厳しいので、週2回早朝勉強会をするなど。1年間継続すれば効果が実感できると思います。

野原 信男委員 父の事務所を継いだのですが、昔からの職員にどうしても気を使っています。

中井氏 対話が大事です。例えば食事に行き、ふだん考えている本音を話すと、職員の方も所長を身近に感じて親近感を覚えてくれます。また、所長と職員の橋渡しになるナンバー2を育てるのも将来的には必要です。

——最後は、中井氏と徳永委員長のまとめの言葉で、お二人は「変化はチャンス、会計事務所の未来は明るい!」と語られました。

——講演の冒頭、研修委員会の徳永 豊委員長が、会計事務所を取り巻く環境変化、業界が抱えている課題などを挙げ、本講演への期待の言葉を述べられました。

会計事務所の特性を生かす

2000年代に入って、法人化が認められ支店展開が可能となり、広告規制や報酬規定が撤廃され、会計事務所業界は大きく変化しました。競争原理が働くようになり、会計事務所はさまざまな戦略をとるようになりました。このような環境下、他事務所と差別化を図るため、特

長を打ち出す事務所も増えてきました。規模を拡大するところ、特定の業種や業務に特化すること、MAS監査等を導入し経営コンサルティングに注力するところなど、実にさまざまです。顧客ニーズが多様化、高度化するなか、税務・会計といった「本来業務」を守るだけでは、これから顧客満足度を得るのは難しくなる恐れがあります。

会計事務所の使命は、中小企業の経営面をサポートすることだと私は考えます。会計事務所は企業の経営者とフェイスツーフェイスでじっくりと話ができ

るという、他業種にはあまりない特性を持っています。これを生かして、顧問先企業の経営者の方の話に耳を傾けてください。そこで聞き出した悩みやニーズが、新しいサービスや事業展開に結びついていきます。

小山 敏委員 事務所を承継開業したのですが、既存の職員の新しい目標に向けてのモチベーションを高められずに悩んでいます。

中井氏 朝礼で必ず共有するなど、事務所のこれからの方針を伝え続けることが大事です。



第2分科会レポート

感動のオンリーワン企業を目指して

第2分科会では、高齢者向けのケアシューズの製造販売で躍進を遂げた徳武産業(株)の代表取締役会長である十河 孝男氏に、同社のこれまでの歩みとご自身の経営哲学について語っていただきました。

講演者



十河 孝男 氏

そごう・たかお
徳武産業株式会社
代表取締役会長

1947年、香川県木田郡三木町生まれ。香川相互銀行(現香川銀行)、縫製メーカーを経て徳武産業(株)へ入社し、代表取締役社長に就任。95年に「あゆみシューズ」を発売し、高齢者向けのケアシューズの製造販売をメインに成長を続ける。本年2月現在、販売累計1000万足を達成。2011年に藍綬褒章受章。12年には、四国でいちばん大切にしたい会社大賞「四国経済産業局長賞」、日本でいちばん大切にしたい会社大賞「審査委員会特別賞」を相次いで受賞。13年、グッドカンパニー大賞「特別賞」受賞。15年8月、代表取締役会長に就任。

困難を乗り越え下請から脱却

私が経営している徳武産業(株)は、妻の父が1957年に創業した会社で、もともとは手袋などの縫製を手掛けていました。その後、地元の縫製会社とともに大手シューズメーカーから学童用シューズを共同受注し、経営基盤を築いていました。妻との結婚を機に私は勤めていた銀行を辞め、まずは妻の叔父が経営する手袋の縫製会社で経験を積んだ後、84年に義父の後継者となるべく徳武産業に入社しました。しかし、ここで私

は大きな困難に直面しました。入社してわずか20日後に義父が病で倒れ、急逝してしまったのです。葬儀の席で私が2代目社長になることは決まったのですが、その後の会社経営は思うようにいきませんでした。持ち前の負けん気があだとなり、それまで会社を支えてきた義母や社員との間にあつれきが生じてしまったのです。そんな私にとって転機となったのが義父の3回忌でした。席上、住職に悩みを打ち明けたところ、「先代は命と引き換えに身を引いたのだから、感謝せな」という言葉を頂

き、義父はもちろん、周囲の人たちに感謝することの大切さに気づいたのです。以来、私は感謝の気持ちをもって社員や取引先、そしてお客様に接するようになり、次第に経営状況も好転していききました。

ところが、またしても当社は困難に見舞われました。ある日、主要取引先のシューズメーカーが生産を海外シフトするため、4年後には取引を完全に終了するというのです。当時、当社は売り上げの95%をこのメーカーに依存している状態だったので、これはまさに死活問題でした。そこで、私は旅行用スリッパやポーチ・ルームシューズといった新分野に活路を見出すことにしました。社員たちの努力のおかげで、この転換はどうか成功。とりわけルームシューズは通販会社のカatalogに大々的に掲載されることで、順調に伸びていきました。

しかし、その通販会社の担当者代わった途端、状況は一変しました。当社の商品への評価が下がり、カatalogへの掲載スペースが激減していったのです。こうして私たちは再び新たな活路を見出すべく、試行錯誤を始めることになりました。

一人ひとりに合った介護シューズを

そんな折、特別養護老人ホームを経営している知人から「高齢者のために転倒しにくい靴を作ってほしい」という依頼が舞い込みました。さっそく、高齢者の方々へのヒアリングを始めたところ、スリッパで転んでいる方が多いこと、そして多くの方がリウマチや外反母趾などで、左右の足の大きさや幅が違って、左右の足が分かっていました。そこで、私は妻とともに介護施設や病院に通ってヒアリングを続け、95年にケアシューズ「あゆみ」を完成させました。この靴の特徴はお客様一人ひとりの足の状態に応じて、きめ細やかに対応していることです。例えば、左右サイズ違いや片方だけでも販売するほか、パツオーダーにも対応しています。また、履いて心が躍るよう、色やデザイン

のバリエーションも豊富にそろえています。採算度外視の商品だったため、発売当初は周囲から反対されることもありましたが、私は何としても一人でも多くの高齢者の役に立ちたいと思い、販売に踏み切ることになりました。結果、多くのお客様に「再び歩く喜びを感じる事ができました」といったうれしいお言葉を頂戴し、現在では年間120万足を売り上げるまでになりました。ちなみに、当社ではそんなお客様に対して、社員による手書きのメッセージカードを商品に添えたり、お客様の誕生日にメッセージカードとプレゼントを贈るといった具合に感謝の気持ちを表すようにしています。私は2015年に会長となり、現在は次女の婿である西尾政展が新社長となっています。おかげで、さらに時代のニーズを敏感にキャッチできる体制が整ったと感じています。これから社員とお客様、そして地域の皆さんのことを大切にしながら、百年企業を目指して頑張りたいと思います。

第3分科会レポート

「子規と漱石in松山 ～新しい文学の夜明け～」

第3分科会では、松山市立子規記念博物館の館長である竹田 美喜氏から、子規と漱石が松山で共に暮らし、その後の人生の転機となった52日間を中心に、二人の文豪の足跡をたどっていただきました。

講演者



竹田 美喜氏

たけだ みき
松山市立子規記念博物館 館長

1946年、愛媛県生まれ。72年に大阪市立大学大学院を修了し、75年から2006年まで私立済美高等学校、済美平成中等教育学校で教諭を務める。その間、85年から00年まで愛媛大学にて非常勤講師を兼職。また、05年4月から07年3月には松山市立子規記念博物館の副館長に任命され、07年4月より同館長となる。

受賞歴・著書／2011年、『竹田美喜の万葉恋詩』（創風社出版）で愛媛出版文化賞受賞、『愛媛文学叢書5愛媛文学手鏡』（共著、青葉図書）、『「なじみ集」複製版解説』（松山市立子規記念博物館）、『「なじみ集」翻刻版』（松山市立子規記念博物館）など。

子規と漱石の出会い

松山が生んだ近代俳句の祖、正岡子規と、松山を舞台とする名作『坊っちゃん』の作者、夏目漱石。二人はともに慶応3年（1867年）に生まれ、明治22年（1889年）、第一高等学校一年のときに出会いました。変人を自認する二人でしたが、なぜか気が合ったようです。漱石は、後に雑誌『ホトトギス』の中で子規について、「妙に気位の高かった男」「早熟でいやに哲学などを振り廻すものだから僕などはおそれを為して

ゐた」と記しています。一方子規は、自分の人生で出会った最もすごい人物だということ、漱石のことを「畏友」と称していました。

子規と漱石は盛んに手紙のやり取りをしています。漱石は子規への手紙の中でその文章について、「大兄（子規のこと）の文はなよなよとして婦人流の習気を脱せず」と文飾（レトリック）の多さを批判し、「思想中に熟し腹に満ちたる上は直に筆を揮って、その思う所を叙し沛然驟雨の如く勃然大河の海に瀉ぐの勢なかるべからず」と、

思想「Ideaがなければ真に心を打つ文章は書けないと厳しく断じています。このIdeaが後に、子規の俳句革新論の中核をなす「写生論」へとつながっていきます。

「愚陀佛庵」での52日間

漱石と子規が出会った明治22年の5月、子規は不摂生がたたリ結核を患い咯血しました。その後、経済的に行き詰まり、明治25年、子規25歳の年、帝国大学を中退し陸羯南が社主を務める新聞「日本」の記者となりました。その後、明治27年に日清戦争が勃発すると、翌28年3月、志願して従軍記者となりました。結核の身であり、死を覚悟しての出発でした。そこで子規は、新聞「日本」の俳句欄のレベルを落とさないよう、自分が育てた俳人100人ほどの作った俳句の中から素晴らしいと思うものを（4378句）集め、自筆の選句集である『なじみ集』を作り、後輩の河東碧梧桐と高浜虚子に託しました。

ところが、すぐに戦争は終結しました。子規は帰国の船上で

大咯血し、そのまま神戸の病院に入院・療養することに。生死の淵から生還した後に書いた漢詩『正岡行』の中で、「ただ期す、青史に長く、姓の正岡を記さんことを」と、文学史上に自らの名を残すという一大決心をしました。

5月、療養中の子規に漱石より手紙が届きます。当時漱石は松山中学の英語教師として赴任していました。「御保養の途次ちよつと御帰国は出来悪く候や。小子近頃俳門に入らんと存候。御閑暇の節は御高示を仰ぎたく候」と、子規に松山に来て一緒に俳句をしようと誘ったのです。この手紙は大いに子規を元気づけたことでしょう。かくして8月27日より、子規は漱石が住む松山「愚陀佛庵」に同居することとなりました。

そのすぐ後の9月5日、従軍前に子規がまとめていた『増補再版瀬祭書屋俳話』が出版され、子規と漱石の元に届きます。「芭蕉雑談」などの俳論、紀行文、俳句を収めた前半生の集大成と言える282ページに及ぶ大作です。親友が世に出した功績を

目の当たりにした漱石が、大いに創作意欲を刺激されたことは想像に難くありません。

「愚陀佛庵」で子規は、俳句革新の書といわれる『俳諧大要』を執筆します。明治28年の10月から12月にかけて新聞「日本」に27回連載されました。「俳句は文学の一部なり、文学は美術の一部なり」。この文学宣言は子規の後半生の総まとめとなるものです。文章は非常に明快、言いたいことがずばりと書かれていました。まさに漱石のIdea論です。隣でけなす漱石に褒めてもらおうと、子規が苦闘した成果に他ならないでしょう。子規と漱石、この二人の天才を奮い立たせ、日本文学史に輝く存在へと飛躍させたのが、共に過ごした松山「愚陀佛庵」での52日間であったと思います。

10月19日、子規は松山を後に帰京します。その途上に奈良で読んだ俳句が、俳句革新を体現した子規の代表句である「柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺」です。明治28年は、子規にとり近代俳句の祖として名を残す財産となる年でした。

懇親ゴルフ大会

参加者82名

11月18日、1988年には日本プロゴルフ選手権、2010年には日本アマチュアゴルフ選手権の会場となった「愛媛ゴルフ倶楽部」で、総勢82名が参加し、懇親ゴルフ大会が開催されました。

同倶楽部は地元出身で日本ゴルフ界の草分け的存在の高畑誠一氏が「一つひとつのホールに変化があり、どこにもひけをとらないゴルフ場にしたい」との思いで総合監修し、50万坪の敷地に27ホール、全長1万590ヤードの雄大なコースとして1975年に誕生したゴルフ場です。美しい自然を生かしたフラットでオーソドックスなコースは、万人のゴルフアが楽しんでプレーできるよう設計されています。

大会の結果は表の通りになりました。表彰式は、正司哲浩大会実行副委員長の司会でスタート。近藤猛大会実行委員長の開会挨拶の後、竹内靖大会実行副委員長、日下雅史大会実行副委員長、MJSの井上善宏執行役員（ミロク賞のみ）がプレゼンターとなり賞品授与が行われました。単位会、個人優勝者からスピーチをいただき、関東信越会の増田正廣会長の閉会の言葉で終了となりました。

【個人成績】

順位	氏名	グロス	HDCCP	ネット
1位	桑原 泰蔵(九州会)	98	27.6	70.4
2位	日下 雅史(四国会)	91	20.4	70.6
3位	竹内 靖(四国会)	90	19.2	70.8
4位	正司 哲浩(四国会)	83	12.0	71.0
5位	吉田 豊道(近畿会)	83	12.0	71.0
6位	眞部 洋(九州会)	92	20.4	71.6
7位	高橋 学(四国会)	98	26.4	71.6
8位	三浦 利勝(中部会)	85	13.2	71.8
9位	甲斐 正信(九州会)	85	13.2	71.8
10位	鳥居 明郎(東北会)	96	24.0	72.0

【単位会対抗戦】

順位	単位会	ネット計
1位	四国会	212.4
2位	九州会	213.8
3位	近畿会	217.2
4位	中部会	217.8
5位	中国会	221.8
6位	関東信越会	222.4
7位	東北会	233.6
8位	沖縄会	234.8



1.雄大で美しい自然を生かしたコースでのプレー 2.(左から)単位会優勝を果たした四国会の近藤 猛先生、日下 雅史先生、正司 哲浩先生、竹内 靖先生 3.個人優勝を果たした桑原 泰蔵先生(左)とプレゼンターの日下 雅史先生 4.表彰式の様子

記念旅行

参加者… 3日間コース54名／日帰りコース30名

● 3日間コース

今回の記念旅行では、四国を3日間かけて巡るコースと、日帰りコースの2つのプランをご用意しました。

3日間コースの初日は、日本三大急流の一つ 来島海峡でのクルーズの後、おおよそ大山祇神社を訪問し、テレビCMでお馴染みの日本食研の豪華な宮殿工場を見学、最後は今治城を訪れました。

2日目は高知に移動。最初に桂浜と坂本龍馬記念館を見学し、続いて高知城を訪問しました。その後、第三十番霊場である善楽寺を訪れ、最後は風光明媚で知られる大歩危峡で皆様には川くだりをお楽しみいただきました。

最終日は、宿泊先の近くにある国指定重要有形民俗文化財、かずら橋へ行き、そして実際にその揺れを体験。そこから金刀比羅宮を訪れ、最後は高松市内の栗林公園を見学し、全ての行程を終えました。

● 日帰りコース

こちらのプランでは、最初に全国区の知名度を誇るポンジュースの工場を見学しました。続いて明治から昭和にかけての風情を残した内子町を訪れ散策し、歴史ある建物の下芳我邸で昼食をとり、散会となりました。



1.日本食研の宮殿工場 2.初日の夜は参加者全員での食事会 3.坂本龍馬記念館の入口 4.重要文化財に指定されている高知城 5.大歩危峡での川くだり 6.シラクチカズラでつくられたかずら橋 7.「さぬきこんびらさん」で有名な金刀比羅宮 8.綺麗に整備された栗林公園

HITACHI
Inspire the Next

日立の SMART PROJECTOR

会議をスマートに。仕事をスマートに。



サッと置いて、すぐ使える。
この使いやすさが
ミーティングをスマートアップ。

SP-1J | WXGA相当
約1.2kg 
JANコード: 4902530055719 希望小売価格: オープン価格
*オープン価格の商品は希望小売価格を定めていません。

超短投写 LEDプロジェクター

高発色3色LED光源を採用。
明るい場所でも鮮明投写が可能です。
机の上にも36型の大画面で投写が可能。



軽量・コンパクト

薄型軽量約1.2kg。
A4サイズより小さいのでビジネスバック
に入れて持ち運びも楽々。



簡単ワイヤレス接続

Miracast™機能でスマート端末と接続
可能。さらに専用アプリ「Link+」(無料)
を使って映像転送も可能です。

